

## シンポジウムのテーマについての提案 - アンケートの結果 -

### 総合討論

日本情報地質学会  
行事委員長 井上 誠

日本情報地質学会シンポジウム  
2008/3/18

## 設立からまもなく20周年を迎えます

- 日本情報地質学会は1990年に設立されました。
- 1994年から昨年まで12回のシンポジウムを開催してまいりました。
- テーマのマンネリ化もあり、来年度以降のシンポジウムのあり方について今回は検討したいと思います。

日本情報地質学会シンポジウム  
2008/3/18

## 過去のシンポジウムテーマ

- 第1回 1994年11月 「**地理・地形・地質に関する数値情報の現状と活用**」  
- デジタル時代の地理学・地形学・地質学 - (大阪)
- 第2回 1996年11月 「**地球情報とGIS**」 (東京)
- 第3回 1997年10月 「**地球情報の特性と処理**」 (東京)
- 第4回 1998年11月 「**現場でのGISの高度利用と課題**」 (東京)
- 第5回 1999年11月 「**日本情報地質学会10年の歩みと社会的役割**」 (東京)
- 第6回 2000年11月 「**情報社会における資格制度**」 (東京)
- 第7回 2001年12月 「**インターネット時代の地質標準**」 (つくば)
- 第8回 2002年11月 「**電子地質図の標準規格と品質管理**」 (東京)
- 第9回 2004年 2月 「**インターネット時代の地質情報**」 (東京)
- 第10回 2005年 3月 「**地質情報の開示・公開に向けての活動状況**」 (東京)
- 第11回 2006年 3月 「**Web-GISの現状と将来への展望**」 (東京)
- 第12回 2006年12月 「**Web-GISによる公開情報活用とその促進環境**」 (東京)

日本情報地質学会シンポジウム  
2008/3/18

## ご協力ありがとうございました

- 2008年2月に実施したシンポジウムに関するアンケートは、30名(FAX:17名、メール:13名)から回答をいただきました。
- 結果の詳細については、後日学会誌に公表いたします。

日本情報地質学会シンポジウム  
2008/3/18

## 回答者の構成

### ・年齢

20才未満 0名 20才～30才未満 3名 30才～40才未満 6名  
 40才～50才未満 10名 50才～60才未満 8名 60才以上 3名

### ・職業

学生 1名 大学関係者 8名 公的研究機関 3名  
 民間研究機関 0名 建築関連業種 1名 地質コンサルタント業種 8名  
 建設コンサルタント業種 6名 コンピュータ関連業種 1名  
 製造業種 0名 販売業種 0名 その他 4名 (2種を選択した者 2名)

### ・部署

学生・院生 2名 研究・開発職 7名 技術職 15名 事務職 1名  
 営業職 0名 管理職 6名 その他 2名  
 (2種を選択した者 3名)

日本情報地質学会シンポジウム  
 2008/3/18

## シンポジウムの開催方法について

- |                 |     |
|-----------------|-----|
| 1) 最新情報の報告会     | 21名 |
| 2) パネル展示形式の討論会  | 2名  |
| 3) 基調講演に基づいた討論会 | 7名  |
| 4) 選任したコーチによる解説 | 4名  |
| 5) 公募テーマによる発表   | 4名  |
| 6) その他(自由にご意見)  | 2名  |

・テーマは、一般会員(公募)を含めて役員会で決めればよい。  
 ・比較的新しい研究テーマについて、先導的立場の研究者を招聘してご講演いただき、参加者の認識を深めるとともに率直な質疑・討論を行うことによって、学会活動の活性化を図る。

日本情報地質学会シンポジウム  
 2008/3/18

## シンポジウムの開催時間について

- |                     |     |
|---------------------|-----|
| 1) 10:00頃から17:00頃まで | 9名  |
| 2) 9:30頃から12:00頃まで  | 1名  |
| 3) 13:00頃から17:00頃まで | 13名 |
| 4) その他              | 3名  |

・テーマによる。通常は1)か3)。  
 ・休日(土日)の日中、一線の若手は平日でられるわけがありません。  
 ・勤務地より遠ければ3)で、近ければ1日で聞きたい。

日本情報地質学会シンポジウム  
 2008/3/18

## シンポジウムの開催場所について

- |                      |     |
|----------------------|-----|
| 1) 東京都内で開催する         | 6名  |
| 2) 大阪市内で開催する         | 1名  |
| 3) 東京都内と大阪市内で交互に開催する | 14名 |
| 4) 地方都市を巡回する         | 6名  |
| 5) その他               | 3名  |

・都内と地方都市の交互。  
 ・空港と新幹線がある都市。  
 ・3)を主体に4)を組み合わせる。

日本情報地質学会シンポジウム  
 2008/3/18

## シンポジウムの開催時期

1)	1月～3月	3名
2)	4月～6月	12名
3)	7月～9月	5名
4)	10月～12月	11名

日本情報地質学会シンポジウム  
2008/3/18

## 興味のある分野

1)	GIS	20名
2)	リモートセンシング	11名
3)	モデリング	11名
4)	論理学	4名
5)	地球統計学	11名
6)	データベース	11名
7)	オープンソースソフトウェア関係	13名
8)	応用・利用分野	16名
9)	規格関係	2名
10)	その他	2名

- ・情報地質学は新しい分野なので、いずれのテーマでも参加してみたい。
- ・オープンデータ。

日本情報地質学会シンポジウム  
2008/3/18

## 手法を中心としたテーマ

1)	地質の数理論理学	8名
2)	Web-GISと相互運用モデル	16名
3)	空間モデリングと地球統計学	9名
4)	地下構造・流体の数理解析	13名
5)	動的解析, 時間変化の数理解析	9名
6)	地球・惑星遠隔探査の数理解析	3名
7)	リモートセンシングの最新技術	11名
8)	衛星を使った最新技術	11名
9)	モニタリングの数理解析	6名
10)	地質リスクの評価・解析手法	13名
11)	地質情報管理とデータベース	15名
12)	地質標準, ISO, メタデータなどの世界基準最新情報	8名
13)	汎用ソフトを利用した情報処理方法	12名
14)	オープンソースソフトウェアの利用技術	12名
15)	その他	

- ・情報地質学は新しい分野なので、いずれのテーマでも参加してみたい。
- ・GISをベースにして、三次元的、時間軸を持ったデータベースの作成。
- ・地球統計学を利用した、空間分布の推定。

## 対象を限定したテーマ

1)	情報科学と情報地質	12名
2)	地質遺産と情報地質	7名
3)	地質年代と情報地質	6名

(例: 第四紀地質と情報地質, 古生界と情報地質など)

4)	国土建設・防災と情報地質	18名
5)	海洋・沿岸と情報地質	5名
6)	資源と情報地質	8名
7)	地球温暖化対策と情報地質	12名
8)	情報サービスと情報地質	10名
9)	Webによる情報公開の現状	13名
10)	鉱物・エネルギー資源価格の高騰と情報地質	4名
11)	情報地質から見た鉱物・エネルギー資源価格の高騰	4名
12)	情報地質学・地球情報学・数理地質学の手法が利用されている他分野の紹介	15名
13)	世界遺産・ジオパークと情報地質	10名
14)	その他	2名

- ・社会の問題を学会として捉えるべきではないでしょうか？
- ・物理探査と情報地質
- ・地球物理 / 化学・生物と情報地質

日本情報地質学会シンポジウム  
2008/3/18

## シンポジウムに関する自由意見-1

- ❏ 同じテーマのシンポジウムを、いくつかの地域で開催すること。
- ❏ 学生を対象に大学等で開催すること。
- ❏ 個人的に興味のある分野はありますが、それは、さておき、社会的に貢献するシンポジウムが開催されますことを期待しています。
- ❏ 情報地質研究会～初期の情報地質学会は、地質や地理分野に携わる技術者へFSやFOSSを提供する場であった。
- ❏ 現在は、インターネットでFSやFOSSが自由に入手できるようになっているが、地質分野に特化した便利ツールは比較的少ないのではないだろうか。
- ❏ 地質だけではなく関連する技術分野の人たちにツール類を提供・交換する場を設けたらどうか、と感じている。
- ❏ 専門的に開発されたツールはもちろんであるが、汎用ソフトウェアを使用して、「このようなことができる」というような内容でも良いと思っている。

日本情報地質学会シンポジウム  
2008/3/18

## シンポジウムに関する自由意見-2

- ❏ 平日やっても、活躍している第一線の若手は参加できません。学術的立場、顧問的立場の方々のみ学会という趣旨ならばそれで良いですし、その域を出ることはないでしょう。
- ❏ 近年、地球環境が取りざたされているのが、情報地質学会もこれらのグローバル的話題に踏み込んで良いかと思えます。国内、海外の研究事例を問わず、地質から地球環境問題に提言できれば面白いと思えます。
- ❏ シンポジウムは、最近の情報・基礎知識を得る重要な場であると思えます。それだけに、東京での開催が多いのが残念です。会員数、講師の移動の段取りなど難しい面はあると思いますが名古屋や広島など、地方の中心都市での開催を望みます。
- ❏ 遅くとも第3号が発刊される9月末にはシンポジウムの大枠が決まっており、学会誌等で公報する必要があると思えます。会員に企画発表を募集し(1~3テーマほど)プログラムを組んでもらうのもマンネリ化を防ぐ1つの手です。例えば情報地質学会に関連した研究会の場として活用することも許容してよいと思えます。

日本情報地質学会シンポジウム  
2008/3/18

## アンケートのまとめ-1

- ❏ 今回の回答者の傾向は、年齢は30歳～60歳、職業は大学関係者と地質・建設コンサルタント関係者、職種としては研究・開発職と技術職及び管理職が多い。
- ❏ シンポジウムの形態としては最新情報の報告会が多かった。
- ❏ 開催時間は、午後の半日が多く、次いで全日開催が多かった。
- ❏ 開催場所は、東京と大阪で交互に開催するが最も多く、次いで都内と地方都市での開催が多かった。
- ❏ 開催時期は、4月～6月が最も多く、次いで10月～12月が多かった。

日本情報地質学会シンポジウム  
2008/3/18

## アンケートのまとめ-2

- ❏ 興味のある分野では、GIS関連分野が最も多く、次いで応用・利用分野が多かった。リモートセンシング、モデリング、地球統計学、データベース、オープンソースなどもかなり注目度が高いことがわかった。
- ❏ 手法としたテーマでもこの傾向は強く、GIS関連分野が多い傾向にあった。
- ❏ 限定したテーマでは、建設・防災関係、他分野の紹介、情報公開などが多い傾向にあった。

日本情報地質学会シンポジウム  
2008/3/18

## 総合討論で議論していただきたい事項

- ✔ 今後のシンポジウムの開催方法
  - ・現状でよいのか？
  - ・どんな方法が最も良いのか？
- ✔ テーマの選び方
  - ・誰がどのような方法で選ぶのが良いのか？
- ✔ どうすれば参加者が増えるのか？
  - ・いつ頃、どこで、どんな形態で何をやれば多くの参加者が得られるのか？

**この場で大いに議論していただきたい！**

日本情報地質学会シンポジウム  
2008/3/18

総合討論に参加していただきましてありがとうございました。  
来年度から今回の意見を反映した新しい形態のシンポジウムにご期待ください。

日本情報地質学会 行事委員会

日本情報地質学会シンポジウム  
2008/3/18